



2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2020年2月13日

上場会社名 株式会社アルファポリス
 コード番号 9467 URL <http://www.alphapolis.co.jp/company/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梶本 雄介
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理本部本部長 (氏名) 大久保 明道

TEL 03-6277-0123

四半期報告書提出予定日 2020年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	3,979	12.0	1,053	7.6	1,053	7.6	644	2.8
2019年3月期第3四半期	3,553	18.8	978	112.7	978	112.7	626	113.0

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	66.51	
2019年3月期第3四半期	64.68	

(注) 1. 当社は、2018年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	7,161	5,913	82.6
2019年3月期	6,878	5,268	76.6

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 5,913百万円 2019年3月期 5,268百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		0.00	0.00
2020年3月期		0.00			
2020年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,600	12.5	1,600	17.8	1,600	17.9	1,000	18.7	103.23

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	9,687,400 株	2019年3月期	9,687,400 株
期末自己株式数	2020年3月期3Q	152 株	2019年3月期	120 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	9,687,263 株	2019年3月期3Q	9,687,280 株

(注) 当社は、2018年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、期中平均株式数を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中、各種政策の効果もあって緩やかな回復基調が続いておりますが、通商問題を巡る動向、中国経済の先行き、英国EU離脱等の海外経済の動向や金融資本市場の変動による影響に加え、消費税率引上げ後の消費者マインドの動向等の懸念により、景気は依然として先行き不透明な状況で推移しております。

当社が属する出版業界におきましては、紙の出版物の市場は引き続き縮小傾向にあるものの、一方で電子出版の市場は順調な成長を続けております。出版科学研究所によると、2019年（1月から12月まで）の紙と電子出版を合算した推定販売金額は、前年比0.2%増となる1兆5,432億円となり、その内訳は、紙の出版物については同4.3%減となる1兆2,360億円、電子出版については同23.9%増の3,072億円となっております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いもの望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新しいエンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業に取り組んでまいりました。

当第3四半期累計期間における書籍のジャンル別の概況は以下の通りであります。

① ライトノベル

当第3四半期累計期間の刊行点数は149点（前年同期比8点減）となりました。『ゲート SEASON2』や『とあるおっさんのVRMMO活動記』等の当社主力タイトルの続刊や、『いずれ最強の錬金術師？』等の当社投稿サイト発の人気シリーズの続刊が好調に推移いたしました。また、電子書籍につきましては親和性の高い女性向け小説が引き続き好調を維持し、売上を牽引いたしました。

結果、当第3四半期累計期間における刊行点数が前年同期から減少したこと等により、当第3四半期累計期間の売上高は前年同期を僅かばかり下回る着地となりました。

② 漫画

当第3四半期累計期間の刊行点数は前年同期を上回る68点（前年同期比8点増）となりました。シリーズ累計490万部を突破した『ゲート』を筆頭に、人気シリーズの続刊が好調に推移いたしました。また、当ジャンルと親和性が高い電子書籍販売につきましても、人気シリーズの新刊配信により既刊書籍を含めたシリーズ全体の販売数が大きく伸び、売上は大幅に増加いたしました。

結果、当第3四半期累計期間の売上高は前年同期を大きく上回り、当第3四半期会計期間における四半期ベースの売上高は過去最高を大幅に更新いたしました。

③ 文庫

当第3四半期累計期間の刊行点数は102点（前年同期比10点減）となりました。人気シリーズ『居酒屋ぼったくり』や『Eランクの薬師』等の文庫版が好調に推移し、売上を牽引いたしました。また、『谷中・幽霊料理人』や『神様の学校』等、キャラ文芸小説の刊行に注力し、新たなジャンルの強化に取り組んでまいりました。

しかしながら、刊行点数の減少を主因として、当第3四半期累計期間の売上高は前年同期を下回る結果となりました。

④ その他

当第3四半期累計期間の刊行点数は17点（前年同期比1点減）となりました。シリーズ累計100万部を超えた『居酒屋ぼったくり』の番外編を刊行し、同タイトルが売上を牽引いたしました。また、『必ず成功する起業の心得』や『欧米エリートが使っている人類最強の伝える技術』等、ビジネス分野の書籍を積極的に刊行する等、取り扱いジャンルの拡大に向けた取り組みに注力してまいりました。

結果、当第3四半期累計期間の売上高は前年同期を上回る金額で着地いたしました。

以上の活動の結果、当第3四半期累計期間の売上高は3,979,839千円（前年同期比12.0%増）、営業利益は1,053,414千円（同7.6%増）、経常利益は1,053,221千円（同7.6%増）、四半期純利益は644,267千円（同2.8%増）となり、特に当第3四半期会計期間においては、売上高、利益ともに四半期単位で過去最高を更新いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第3四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末と比較して220,780千円増加し、6,893,078千円となりました。これは主に、現金及び預金が増加（前事業年度末比136,599千円増）したこと、その他に含まれる前払費用が増加（同31,801千円増）したこと並びに仕掛品が増加（同26,314千円増）したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末と比較して62,257千円増加し、268,097千円となりました。これは主に、投資その他の資産が増加（同68,514千円増）したことによるものであります。

② 負債

当第3四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ388,260千円減少し、1,183,512千円となりました。これは主に、未払法人税等が減少（前事業年度末比340,752千円減）したこと及び返品調整引当金が減少（同56,981千円減）したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ27,124千円増加し、64,654千円となりました。これは主に、長期借入金の増加（同28,214千円増）によるものであります。

③ 純資産

当第3四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ644,175千円増加し、5,913,009千円となりました。これは主に、四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加（前事業年度末比644,267千円増）によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の業績予想につきましては、2019年5月10日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

(注) 業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,213,620	4,350,219
売掛金	2,177,477	2,168,267
製品	169,952	184,190
仕掛品	96,427	122,741
その他	14,819	67,659
流動資産合計	6,672,297	6,893,078
固定資産		
有形固定資産	11,029	10,450
無形固定資産	36,828	31,150
投資その他の資産	157,982	226,496
固定資産合計	205,839	268,097
資産合計	6,878,137	7,161,176
負債の部		
流動負債		
買掛金	59,036	45,654
1年内返済予定の長期借入金	29,656	24,284
未払金	469,506	461,113
未払法人税等	464,458	123,706
賞与引当金	27,602	53,995
返品調整引当金	399,171	342,190
その他	122,341	132,568
流動負債合計	1,571,772	1,183,512
固定負債		
長期借入金	34,988	63,202
その他	2,542	1,452
固定負債合計	37,530	64,654
負債合計	1,609,303	1,248,166
純資産の部		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金	853,824	853,824
利益剰余金	3,551,322	4,195,590
自己株式	△137	△229
株主資本合計	5,268,834	5,913,009
純資産合計	5,268,834	5,913,009
負債純資産合計	6,878,137	7,161,176

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	3,553,562	3,979,839
売上原価	1,009,670	1,029,361
売上総利益	2,543,892	2,950,478
返品調整引当金戻入額	433,097	399,171
返品調整引当金繰入額	388,752	342,190
差引売上総利益	2,588,237	3,007,459
販売費及び一般管理費	1,609,622	1,954,045
営業利益	978,614	1,053,414
営業外収益		
受取利息	14	18
その他	556	—
営業外収益合計	570	18
営業外費用		
支払利息	217	210
その他	—	1
営業外費用合計	217	211
経常利益	978,967	1,053,221
特別損失		
本社移転費用	—	30,584
特別損失合計	—	30,584
税引前四半期純利益	978,967	1,022,636
法人税等	352,421	378,368
四半期純利益	626,546	644,267

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、出版事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。